紀伊國名所圖會

五之巻
海士郡

内閣文庫
和書
類
八六六六號
二三冊
一七六函
一架

内閣文庫
番號 和 8666
冊數 23 (8)
函號 176 14

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

伊豆國輿地全圖

第二類書目
制度局

身代地藏
金藏院
金剛寶寺（本尊護國院　多門院）
宗徒坂
布袋松
琴の浦
羽見社
筥嶋
産神座

羽見社
塩竈
二重塔（開山堂　持法院　平等院　海龍院）
二滝（宝瀧院　穀屋坊）
名所山
名産西瓜
神結座鳥
寿日神社
柱況の鼻
中言神社

裝束の松
若宮八幡宮（鎮守祠　住吉　二王門　普門院）
滝の坊
名所の濱
濱の宮
神崎観音
船尾
沖内濱
黒江神坊

名所の浦
紀行文日宅
吾福ち
大師の全圖
往道吾（実丸上人手植の林泉）

賀
橋
雑賀川（松島　細舟　舟形　船形）
三蒼嶺
福寿院
午頭天王祠

国立公文書館
National Archives of Japan

紀伊國名所圖會巻之五

光福寺
中言神社
身代地藏
金藏院
金剛寶寺（本寺護國院　多門院）
宗祇坂
布袋松
琴の浦
羽見社
笹の鳥
産神巫座

大宅の松
大日堂
羽見社
塩竈
名所山（飛山堂　二重塔　淺間社　平等院　宝藏院　海龍院　穀屋坊）
名産西瓜
神結座鳥
春日神社
枝川の梟
中言神社

小雜賀
汐見橋
裝束の松
若宮八幡宮（祠宇　社殿　二王門　滝の坊　普門院）

名所の濱
濱の宮
神崎観音
船尾
汐内濱
黒江神坊

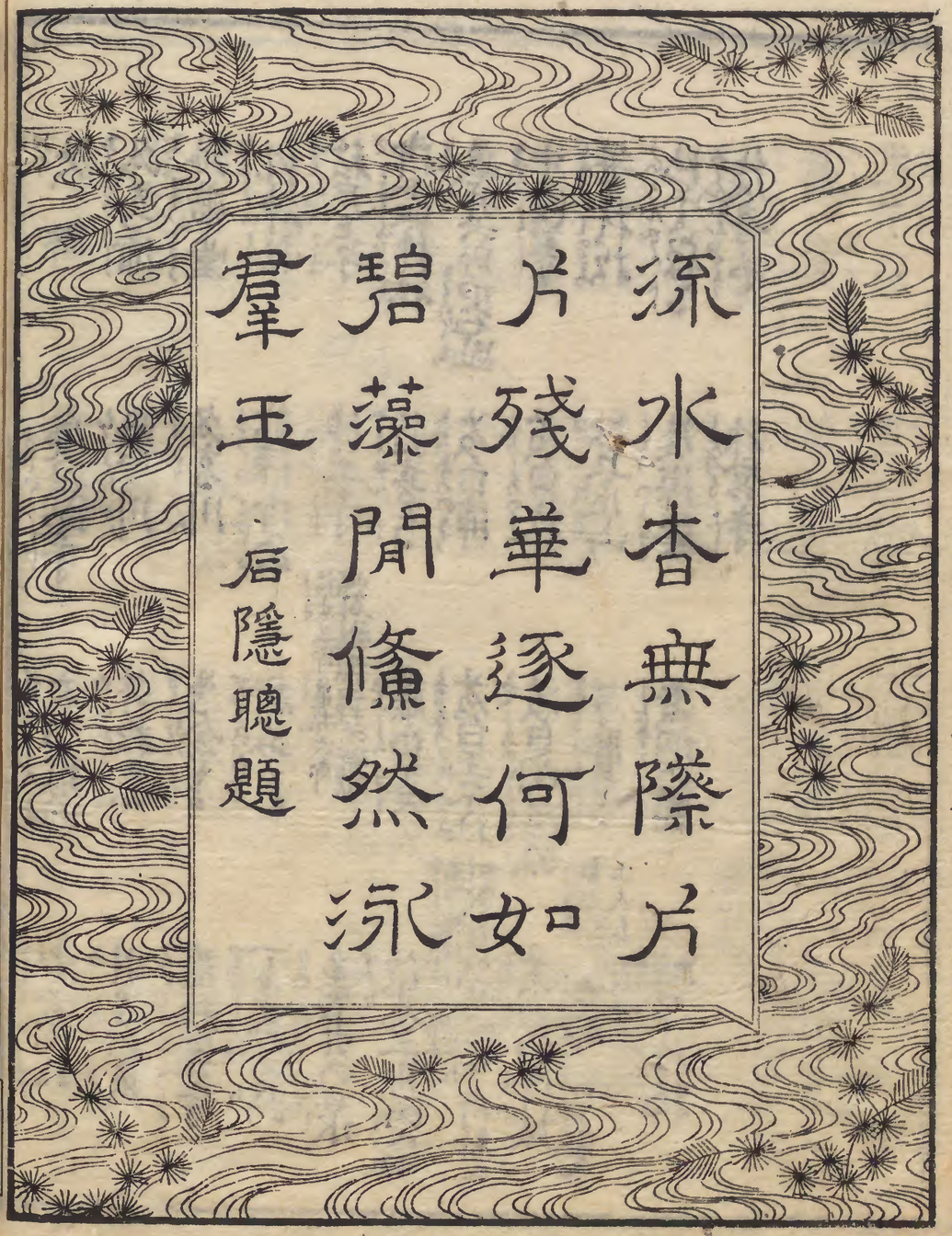
雜賀川（杜鵑　泊舟　船橋）
三葛嶺
福芳院
牛頭天王祠（大師堂　念佛堂　拝殿　應同樹　宝性院　松樹院）

名所の浦
紀伊文四宅
吾福ち
大形の全圖
猪道善（上人手植の林泉）

黒牛潟
龜堂
若宮八幡宮
沖門の所
桑田神社
松代王子
塚跡
車岩泉
幡川瀑布
雨乃宮
地獄寺
蓮華寺
黒江橋
城跡
池の谷
高里神社
城跡
三上山
延命寺
長宮山
境岩
鬼の城大岩
善提寺
正八幡宮
門挽物の圖
于潟浦
永正寺
阿弥陀ち
徳道院
春日神社
百艸明神
十二所権現社
瀑布
兩宮社
潭林寺
苗取松
潭定寺
神宮寺
流池
大祢寺
開山堂
六字名號石
潭字祠
潟村
大野坂
神宮ち
称名ち
顔成ち
開山堂
下居神社
堂の潟ち
敕願寺
宮野辺旧宅跡

大野
名高浦
地獄堂
紀神社
秩父王子
沖霊神社
亀井八郎屋跡
中道寺
筆松
沖ぶくろち
沈高屋
廃秋願寺
柴川
名高川
船津沖松
浄土寺
沈高ち
芳白浦
藤白墨
芳白王子社
芳白関屋跡
芳白の沖坂
芳白松
芳白山
塩津湊
神宮寺
大空城跡
井松原
ち念ち
柳手戸
山名安紀
井戸の表
廣極楽寺
一乃丹の跡
亀井の泉
沈木三郎の宅
石鳥居
了賢ち
飯盛山
上人松
衣掛松
舟手洗井
蛭子神社
芳網の圖

国立公文書館
National Archives of Japan



春日山地藏院光福寺　手平村にあり言宗

大師堂　法大師の作なり

支地菩薩　善薩の大必眞作の法一切の仏菩薩の八十八ヶ所をうつしたる所なり

大宅の松　日村長本昌寺畑にあり

小雜賀　手平村

雜賀川　雜賀川は吉野川の下流にして西流をなす

宇治川　宇治川は南にながれ雜賀川より初夏のころより遠白の達人船すぐふ暑氣にうちに嘆じて星うごく秋を待ち網船軽粉船長船偶よ水の加をまぐるに結ひ付く江中氣にうごくつ所よたぐりよせあ中の業を為て魚氣わ〳〵おびたゞ〳〵彼祝小の船ようりの小に見しあやれ面白きくつぐうちう中秋の月い生石ごくようち生く根を

雑賀川

川狩や
梶付
ゆらゆら
紫
小舟

若山
画誰

汐船和歌浦
次男弘美韻

扇舟一棹
弱浦隈多
少風光豈
易裁偃浪
彩虹橋様
絶書空斜
雁字行開
欲拯朱貝
底深浅將
伴白鷗岸
去來無限
烟波目繩
々坐思帝
子意悠哉
崖弘毅剛
先

熊野

三千男の景色ありて流さんに棹の音蕭條として玉津岑の名も
おぼろげなるに東にハ名所山あり半腹ハ絶壁三井ハ今剣宮寺甍
をみがくに西ハ愛宕ハ弥勒寺小町ヶ峰甲崎低子松雑賀の
城墟ハ昔ハ高くさらハの絶頂に妙見堂あり岸山いとのうく武
祢徳両帝の宮殿の礎に南ハ昔きく絶壁の巖石
あり信ハ伽羅山くハ其ハ乃松林の中に玉津岑明神乃
宮居神くしくたもうるハ其ハ水あり小樓あり閑南乃
勝景名區にたぐひなうたうき

紹述先生文集曰自小貫生宅前小港放舫而到布曳海淺沙舟膠以手掬泥少得三三蜆子遂煮而食之小河豚上釣者多亦不中食既而軽陰雷作右舟而呼者乃下出丈人遺人馳東下暑

くくかく棹さす舟のとくみゆる邪　嵐雪

すくしくや舳へちくくくくのう芽　涼帯

岡行のうろ芽やあ芽のくま　其角

中言神社　田尻村西にあるこの生去神社に例祭九月十六日神社の西ハ浜の宮日前宮

通照山大日堂覚王寺　日村にあり　宗言宗古義

大師堂　弘法大師を作るひるかに西国八十八ヶ所をうつるのみとのあるくくのうのくくひくくを作く

汐見橋　日村の小谷入口にあり　山の井　日村のくくる三町ばかり上にあり清水素白

三号旬嶺　甲ヶ村より三ヶ村にあるこの峠なり　もくの用水にハ

秋月村乃代の氏へ仲遷座あくくくく

中言神社
大日堂
汐見橋
八幡宮

春の日や
ゆくへ人なの
あくまもう

信野
雨巣

[illegible]

明見社　ころ〻村小茶の山よりこの布引村のむこうの生土神にしく例年九月九日ふる
当ゆい五ゝの一ゝ吉郎むこ中言のうゝ[illegible]ゝ流のゝやより明前宮の神後秋月村より
遷座ありしゝ[illegible]ゝ東とあゝたるあれ村人上中よりかゝるを
ゝ来ゝ市ゝ表東よりひゝよう三ゝ[illegible]ゝ村ゝ号ゝ[illegible]ゝ三番ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ上人[illegible]

裝束の松

来くるえまた裝束堂の仲ゝ[illegible]

海見山福壽院　村ゝあゝ[illegible]言宗古義　蓮如上人
大師堂　紀三井山法大師国院に屬に　存る十一面観世音　法大師の作　長二尺
法りん山金藏院　村村にあゝ[illegible]ゝ古義　存る藥師佛　仏師法眼[illegible]
大師堂　紀三井山法大師国院に屬に　四国八十八ヶ所ゝ[illegible]ゝ八十五ゝ[illegible]ゝ八十六ゝ[illegible]

塩竈　ころ〻ゝ[illegible]ゝ紀三井寺ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

紀三井山護國院金剛宝寺　名草山の半腹にあり

本尊十一面観世音　開山高野上人　古義真言宗

秘龕千手観世音　西国第二十四番の霊場

開山堂　本尊の上にあり　開山高野上人千手観世音の木像

上人自作の木像

二三里塔　五重の木造一尺五寸作

感応の

鎮守祠　白山妙法権現　熊野三所権現　二十王権現

絵塚　日本にあり　開山上人大般若経の百巻を

札納所　本尊のうしろあり　西国三十三所

絵楼所　本尊の梵鐘

大師堂　弘法大師の木像　四国八十八ヶ所を移して

常行念仏堂　服部の山にあり

三瀑泉　南と柳柳小谷本尊より下南三町第一の瀑布　中と柳柳小谷本尊の坂の傍にあり　小と吉祥水本尊の小三町にあり

柳柳水瀑布

階前懸瀑　遠望臺　瀉自崑崙山下来百丈丹崖

鬼工手　仙家十二小遊苑

二王門　両脇金剛力士像　仏師

禁殺生碑石　二王の下にあり　和歌浦の

城冒山人

本堂
本坊
手洗
大師堂
行春塚ハ長山堂の
歌よ埋有伊義井蘭場書
和歌の浦
桃青翁
紀国
桃西庵
越前
岩芝

其二
紀三井寺
宝性院
天王
曽門院
宮殿

一舟
大日
妙見
正行寺

如泉
千手谷
宗我坂
宗我坂
宗我坂
アヤ坂

應同樹　[illegible]の[illegible]に[illegible]
[illegible]
山有二藥樹一名應同樹傳是自[illegible]宮得来毎歳七月海又
獻聖壁王寅年本堂發舎利結衆縁余亦得拜云
家集　[illegible]

卒塔婆護国院　内陣本尊[illegible]
等衆山果報院建立の家[illegible]
書院[illegible]

塔婆海龍院　[illegible]

大師堂　[illegible]

宝藏院　[illegible]

大師堂

庵の坊　[illegible]

大師堂　[illegible]

普門院　[illegible]

大師堂　[illegible]

宝性院　[illegible]

大師堂　[illegible]

松樹院　[illegible]

大師堂　[illegible]

多聞院　[illegible]

大師堂　[illegible]

平等院　[illegible]

大師堂　[illegible]

穀屋坊　[illegible]

大師堂　[illegible]

[illegible]

千手谷

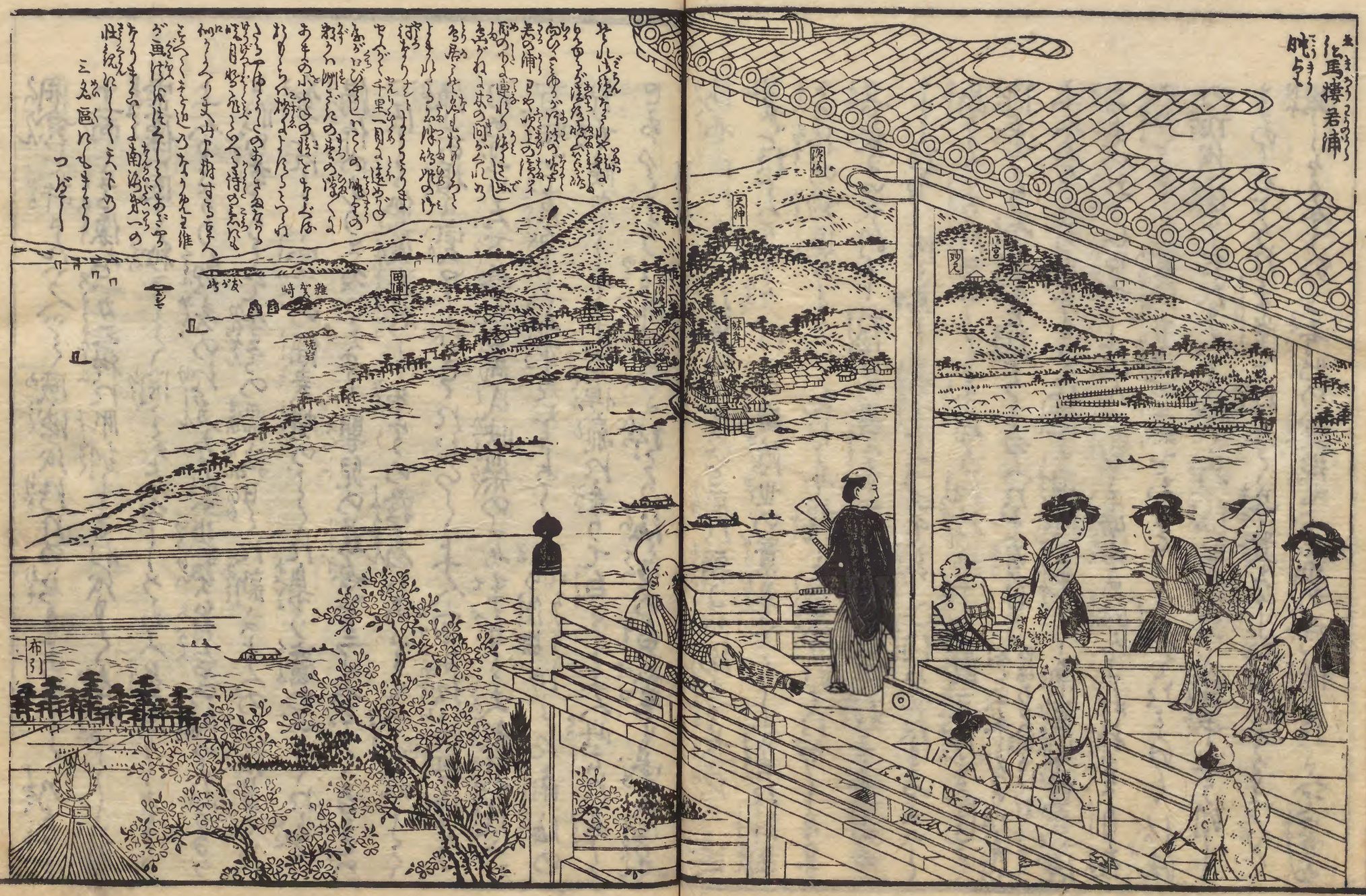
[illegible]五町ばかり

龍燈の出　千手谷の中

[illegible]

[illegible]

[illegible]


佐馬樓若浦
暁ち
天神
妙見
宮
崎
雑
布引

開會と許さんいつゝ威徳仏法のゆまこあつゝ乃角
十一面〻そ像を一カ三体に彫刻こ仏ゆく安置〻
霊像い固く秘て〻〻開こをゆ〻ゆ人見ゆ〻
上人ゆくよう祈願のゆ人ゆ無契待合の時ゆ〻ゆ
ゆゆ考ようして孝そゆの霊験日〻に新〻上人の仏法日〻に
盛んに〻〻四方の僧素蟻のごゝく集う鬱のごゝくにゆう
渇仰のあつさゆ〻〻嬰児の慈母とさゝごゝくゆまこ
ゆに〻ゆ他摩如来〻〻半字の荘厳のあゝゆ〻〻
浄土の相ゆ変ゆ〻むゝに〻上人向朱仏法奥深ゆ
なゆ見い天下巻示萬民映樂のゆあ手自〻大船差渡六
百軸とさゝ〻〻ゆに〻に南海の
計女候忽〻て上人の停泊に乗りて白さ〻上人此を見ゆ
ゆゆ〻ゆ〻ゆ法世ゆ〻ゆ海龍の奥殿も常に安

の紀世言と知るべし[illegible]将生すべく上天の果を結べ
るの功徳を号るもちんこれ[illegible]報恩のため例年七月九日
[illegible]此海上を浄燈[illegible]献じ永く上人の高徳を世々羅
[illegible]
[illegible]海上[illegible]の新[illegible]浦の又願[illegible]上人一[illegible]び[illegible]下界
の群[illegible]化度[illegible]順化の着[illegible]よりて[illegible]得脱の
[illegible]を[illegible]大龍王[illegible]の[illegible]護[illegible]
[illegible]上人[illegible]より[illegible]願の[illegible]
[illegible]度と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]宮[illegible]を衆人[illegible]
[illegible]
人其餘[illegible]
海上[illegible]
[illegible]上人[illegible]の[illegible]女[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]上人[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

竜泉あり。もとより八德を具足して寒暑に増減あることなし。三蜜灌頂の圓仏まします。蓮の曉と翔ちんん。其の三丹くに号ゆえん江戸より日数あることなし。紀の字をとりて紀ノ国と。

（八社昔御代々皇子たち降臨の所。圓城寺建立あり。井の水ゆゑ灌頂の圓仏まします。大公皇子の殿今に残る。其の井水清泉なり。）

井の水ゆゑ灌頂の圓仏まします。三井の秘くれ鳴呼中山乃勝景。ふる久しく杉の名所山いまも螺と屠りく和奇吹上の浦より對し。三の中の樓閣翠微をめぐり丹青波間より俯瞰す。

ちりう弦人の扁舟雲樹に映発し。天台の霞茫々たり。

漁夫が孤棹煙波に出没し。

つるひとつる人誰か世外の標とつぐ。

遊紀三井山　　祇南海

天下三千三福地。此山亦是古霊場。洛陽の和梵蓮一洋閣。林樹起痾花雨香。昌図一燈傳至談。翠屏三井讓清涼。威神魏々金剛窟。幸聞光明秘密蔵。

（神陀落山在昌國縣海中其八景中有洛伽燈火蓮洋古渡。天台翠屏山有三井山有薬樹傳是自龍宮來往歳本堂啓龕給衆縁）

同　　上野義則

朝試謝公展給園日未斜秋風吹佛含龍晴霭遶漢家窗外芭蕉樹帆前芦荻花山僧偏愛客海色加袈裟

雨中泛舟望紀三井寺　　然阿老人

駐棹自従客依沙起佐饗霧晴悲閣出雨歛在家重渇酌杯中物厭食間飯後撞徒看三井地泥沼怨雖縦。

（紀述先生文集云。山上有寺曰紀三井。辰山面海。磴道五層。歴二百餘級。峻如辟立上有堂塔僧坊。此間接和歌濱海之地多有岡田堆沙作堤畧石煮鹽及暮和微雨而歸矣）

りんおくの小さくもくれ三丹山　　く呂仏

叶ぐるやしくの小ぬ沖の帆を白し　　攪るさ人

いそうや沖のしくれのまわりさ　　帆　　去来

浦のちゝ紀三井ちよう走れたり　拾遺　尺童

景にくるゝ人ゆかれぬや紀三井てら　西撰歩合　由良雄

宗祇坂

ゆゑの素堂

に　あり

紀三井山下を左へいさゝか宗祇の古事ありしところ

宗祇にもやとり逢さくら　も　ゆ

名所山

紀三井山の霊あり

万葉　名草山事西花來吾憑千重つ重名草月名岡　無名

風雅　名草山ゆくさゝやちくさのつゆ花ゆゑ名草のまや　紀俊文

文本　名草のちくの長よ立別れ名草のゆ月ゆ名草のゆ　前大納言

旧　あつまちくさの山のわくきんかさいとすゝきいつゝ　長覺法師

なんの顔あり　し　桃　と　ふ　三保

名草の濱

布川村より毛ゝの濱まゝ名草の濱

ほいなくさるのにしろふるたあり

後撰　名草山ゆくさの濱ちゝつまに紅葉ときあり　ゆ　ゆ　ゆ

後撰
紀國の名草の浦と君をしやまつのひとこと風つる　よみ人しらず

新古今
蜑のうろみるめを波まくらくちぬなし　俊成

玉葉
なにはうら今名草の浦千鳥ちとせをこえてなくこゑ　式子内親王

續千載
浦住人跡も名草の浦ちとり夕汐ごとに空よりぞなく　内大臣

新千
あくもなほ今名草の浦風に物思ふ袖を吹かへすなり　右衛門督教定

夫木
芦ぶきのかり名草の浦の浦千鳥巣にとぬれすなどとよ　よみ人しらず

紀の名草の日〳〵なる

に
えうがくやくしの日とをとこ名草の浦の浦　正

月
そらにたなびくなくさの浦のなくさの浦のよるまもあはれ　兼浦

月
名草の浦の浦のそら風に空きえまさるかりあけの月　定家

千五百
わかつのちぬ〳〵名草の浦の浦あくてうく美の浦ふく　有家

夫木
里うら人蛭のゆくもゆくえわたるとおくさの浦の白雪　雅經

月
紀の國のなくさの浦の貝ひろふ人蛭のめぐりの言なくうせん　よみ人しらず

家集
ひ〳〵にもおくれぬなくさの浦の浦波ちとうにたちぬ　浦波

續千
あやとうのかくさの浦ちとうの四代まてあとのこりけるか　牧の法師

家集
おもふこころなくさのうら波の浦波のまろにたちくるせきく　藤原光經

雪玉
とく持のかくさもちとうに我心なくさの浦よすめる波のつた　内大臣実隆

千根
ワこ浦の巻も名くさの浦の浦波神さびにける花のしら浪　正徹

千首
ちとうさもなくさの浦よあさりして家もうたあへりしこゑ　耕雲

うらわかうまつのの浦の浦波
まして但伊勢の激氏うなり
あのうわ〳〵のおもふこゑ
にあつしこゑうちかけ
て日にきうひくたてまつる

うとをとうかとうあるはるそひよい名草の浦のうひくるか

名草の浦　日本の浦とよ

紫禁
ちとうのうひや名草の浦ちとうめとよ赤の袖ちとうつ　順徳院御製

布曳の雲　布引村にあり

羅山詩集曰　紀州三井寺中置大慈像世傳昔有僧常信観音住此處且

布袋代牛
布引西瓜畑
若の丸藤や
西瓜畑
東武
陸羽
西瓜食べ
知の鼠代
其角
西瓜今見生南浦
刺代含玉露濃
僧
義堂

龍神來請僧乃俱入氷府及其飯。神授二貝一錫杖其後有二梵鐘出海畔。人怪之欲取之。鐘不動於是僧出見之撫摩則鐘動而鳴其聲清亮。繫布於松連之於鐘。追以牽之所謂布引松是其緣也。既而鐘甚輕而出。遂置於手樓爾來七月九日夜則龍灯于松下云。補陀岸下有神僧。夜海鯨音出應白布緋松如素布龍絹千尺是龍燈ト云云

うち上くるあぢきなさ布曳の松　秀吉公

松遠く霧めのこれひろ那　京　三千風

布一村より出るとて上品に西瓜を賞永年中流傳より薩州へ移る安安の時分肥前の長崎にて食べ美味中土地よりとれる西瓜を食べ美味中土地よりとれる西瓜

名物西瓜

西瓜

祇南海

前中碩莫若。暑日功誰加。虹霓彩隨刃。氷霜涼沁牙。

子傳黑齒國。皮稱綠沉瓜。吾體雖堪轉。赤心豈可差。

西瓜冷々おくれ安達うたれや　よみ人しらず

こけ橋よりくく抱佐く西瓜ひろ那　去来

濱の宮　毛見村よりあり。あり。生土祢に御幸毎年九月廿三日ちるくれ日お宮と入くくくくさぐるよいくくく

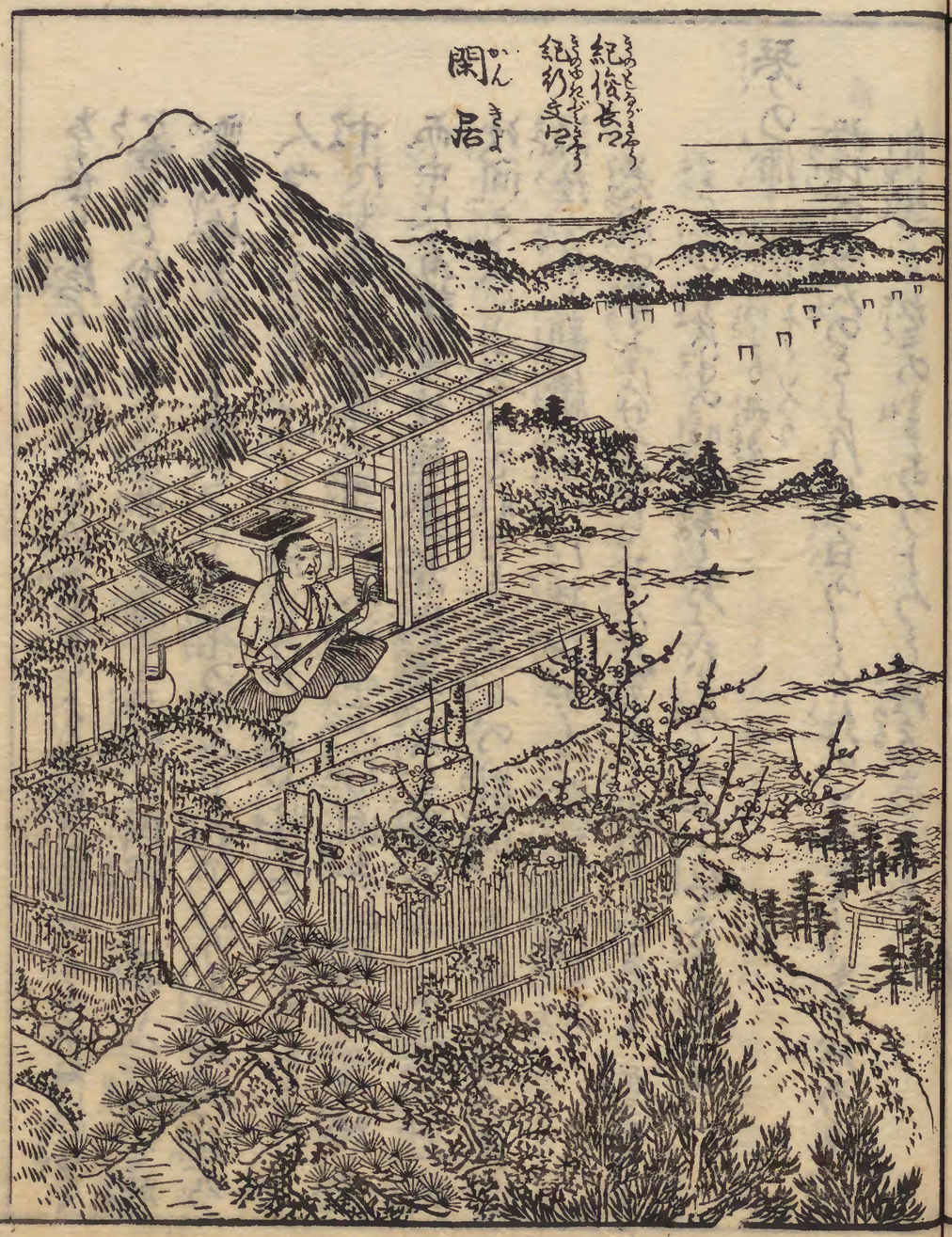
紀伊宮
中三社
天神
天照皇大神宮
目前宮
陽明石
ヒルコ
八幡宮
石見宮

名所濱
名所濱
名所濱
名所濱
琴の浦
琴浦秋鴻
八月九月蘆花舞三點五點鳥下疎雨夕陽秋影滄相映相呼不迷處好將山水誠商量無意氷田逐稻深飛來故花琴浦月碧水明沙夢瀟湘
祇南海
晴後や
しらへ琴らく
ふるこえ彩
備前
可也

にてつくり國造家の行勢とゝのひまゝに一般の祭礼なる日前
國懸の大神はそもゝ神武天皇東征のとき天降にあつかりし二神
の神裔なりと日前宮の御霊代の御鏡 日前宮の御神体一名御実代
の日矛 御神体 ゝまつりまつる共に天照大神の前御霊代くまゝ
まつると天道根命より命ぜられたまふたれば天道
根命二柱の神賞と奉りて初め国かを浦より本の宮と定
く琴浦ちる岩が根にこれ祭れり号別日前国懸
り両大神なり 甲岬より三丁あまりも出る岩ちる所地なり
其後豊鋤入姫命御身と奉ゝくこれにうつりまつりて
此地に遷りなまつりし天照大神い吉備の名方の濱宮ゆ
うつりまつりゝ両大神いもゝ此地よりぐゝ遷り給ふ無仁天
皇十六年秋月村の今の宮代の宮宝遷り給ひなまつりまつる其
いつくしく壮麗もいと厳重なれば国の大公の宝物なる為

有とゝもんねさ祭ゝ也村びろはちりぬ大御神のゝぐゝ汝ゝ
おゝ山ゝ岳の本立のえゝぐゝとまゝ〳〵物の歳の若ひとるまゝて神ちりる
おゝちゝゝゆちりる小景公次きゝざる宮居の簪ゝ山ゝ陸れ
のゝゝゝとゝのゝゝ言ゝくもゝゝゝとゝぐろゝ感性と使ゝ
狂歌 行風

紙満山善福寺 日村にあり 本尊阿弥陀佛 慈覚大師の御作なり
観音堂 日本十一面観世音菩薩二尺 西国二十三所 観音霊場の第十八番
当寺の開基久遠にして詳なる大永天文年間の古帖さ
宝物記録おゝ天山の紙ゝ灰焼くなりしとぞ
御鎮座嶋 日本の岬冬浦の海中にあり 是神の
御崎観音堂 日本山の尾さた
紀行文退隠舊跡 宮崎の頂上
彩文後長の子にして世々の職をたゝそ才六十代の国造



ちり　圓造の[illegible]
日吉宮の新下れども　圓造家代々其人よろしかりしかども
中俊長は博学にして和かと吾とう後小生帝詔して今のうち
を召しもちゐる其撰にあつるもの百餘今牧詩歌の所に[illegible]て帝宴
に侍し寄用日々に位を叙ぜらるるに俊長栄利と心
とせざるあり其遁のわりし源し終に應永十二年初志を遂く
退隠し高倉ところ梅牧百株竹牧千葉とう名く其行を
標し書軸萬巻を積く其中に讀往く酒徒琴侶代に
娯とるし[illegible]よく俊游し[illegible]其身を終く泳ずるところの秀逸
おのく新後拾遺新續古今の集くえんえんり紀文風に文
の志代後さ四風を巻し[illegible]其徴と[illegible]
て位後こ位しつる嘗く永享年中丹墀に侍し[illegible]後こ章を織
帝ときに賓劔二口とたるつくこれを褒美たりしひ
うの人ときに其家風を豫さるうと感じつちはくと盛ひと

たちもうぢうとのべども行交のくもうり貴寵とうつゆばるく
なのおくれ追ふく世栄と辞し此地の閑寂と其じて性を煙
霞に放まゝゆたく詩花の才をなぐり尚付名庭の
人々のうまれ情くに吟詠ゆつく是が性をよせざるにうつ
中にも東沼禅師が贈序に曰梅亭竹園此に珍浦暮煙に上
而中に有讃書絃誦聲者定其公之廬乎予芳鞋竹杖逝
次問こゝくうこしてきて其人の風流ひるふくきう
詠歌なく新續古今に採撰やう
（以上年号豚史津抄桑陰遺稿より）
芙浦の芳ふけてやうをおんなもいもなく間のもくいもも　従三位行文
（もうさるる後堀の内より舟屋の情まてくいう）
琴の浦
此地の名人のこゝに中白ふく他のいろをまつ公あるくに
自然くれそのまうのようく此名あるく

後拾遺

たのうつ浦に琴ひれ　道命法師
新勅
ふるとてあるにうる中の浪ふこゝまつたの浦に　法印幸清
なりもよりにけるとてやうこゝ浦船の浪のたうに　侍従隆教
ちう浪のひけくもの人なきやちうにたのこみうめうに　衣笠内大臣
ようかとれもうの中ちりやに琴浦ろのまのしれ飛
ある人のたく藻の煙ちうくもう浦風をいうだのまん　前大納言為氏
我ちや浪ちうしおちうちうなくなをきこゆる　正二位隆教
いうるかいあ此のうふおく綱の琴浦にのんひくうん　前大納言経継
春風ち浪のちうるる琴の浦うもうのあたこうちうち　仲正
紀伊国へくぐ山ー村日前宮図造尤京兆おくれそう
ちのくろやをとうる春のちうくあなうこのうちうく　飛鳥井雅永
海まとむ里のちうくへちうたう浦うやふれちひくうん　家隆
ふるうに藻ーかたうもちてうに琴浦へのみうあうう　文負公

琴浦松緑　俗所謂布袋松昔有神僧自龍宮獲鐘處其繫組松是也　祇　南海

繫組千古緑　參雲浦得松風琴自開波底華

鯨何處吼　無人試問洞庭君

槐亭老人

春ゝ来や浪も岩とて琴のうゝ

明見社　肉原村西山西ゝ山の麓にあり　春日神社　旧称侍所の南の岳にあり土人ゝ伝称藤原の社ゝゝまと鎮座のもりしも

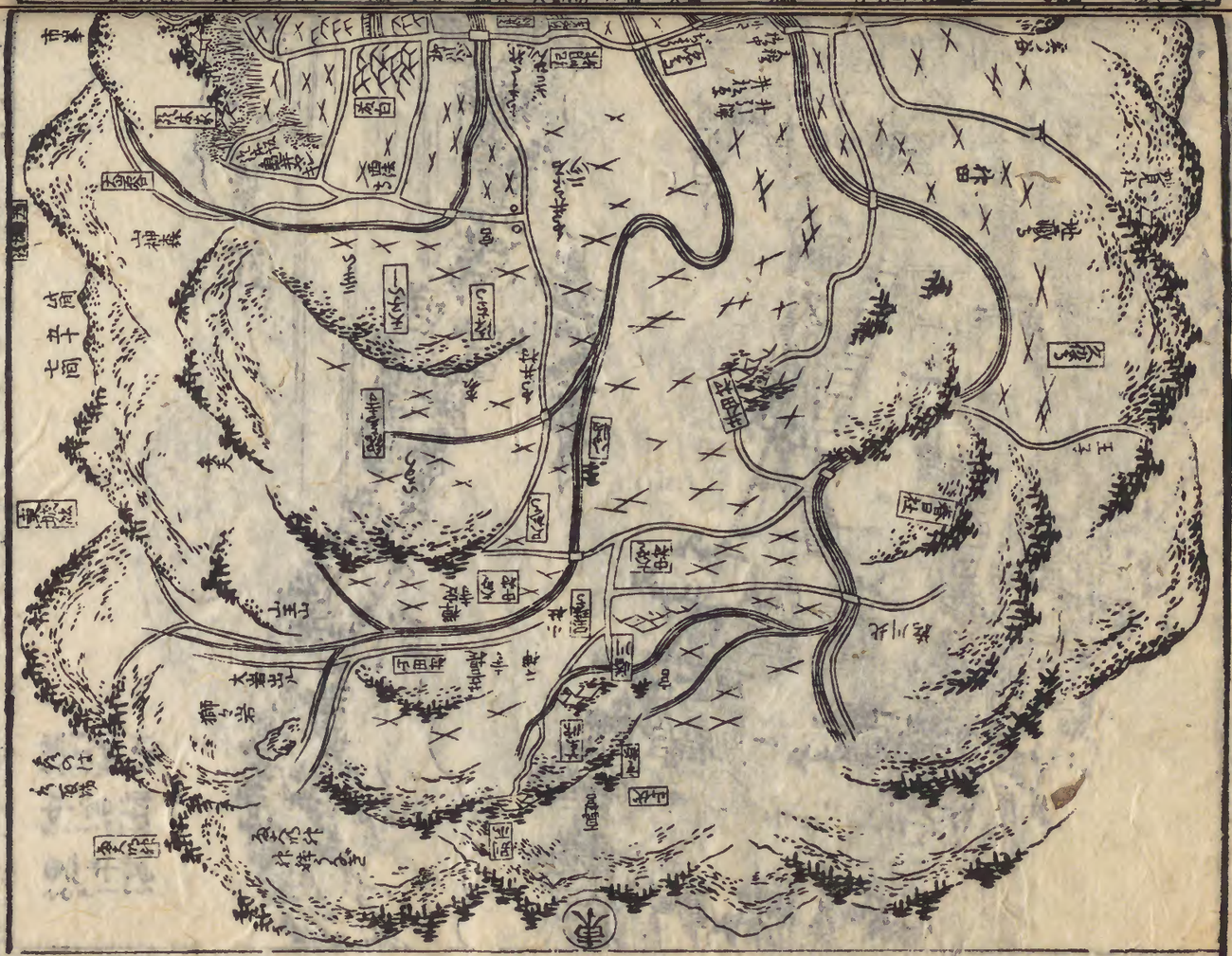
「村の生土神」例祭九月廿三日　寛文十年中和泉国大鳥郡和田村の人称職補任際目の古記あり称ゝ八幡の地主のこゝゝ

船　庭

中言神社　黒口村にあり通称の生土神例祭九月廿七日　紀神名草比古名草比女神

末社　祇園　大国主　八王子　拝殿　神楽舎　先生南海

黒江御堂　天王　天王　天王



国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

佛恩と殺ごろも稲麻のごゝ

実如上人ゟ手植の藤　寺内の門ろゝにあり枝猶左して他にあゝろゝ等植ちゝ

於敬

孫ちゝろゝ又ねちゝろゝくわらゝろゝる捻ぬらろゝ邪　毎　雄

海ゝの椒泉に用役実如上人の庄ゝろゝにて二十五善寺院の巷ゝろゝて時時の扶助ちゝの

黒牛潟　山地ゝのいそ辺よりとゝろゝ里人あゝと集ゝゝゝゝゝ家ゝ居ゝゝ

黒牛乃汐紅丹穂経百礦城乃大宮人四朝入爲良霜　多原卿

同　古家丹妹等ゝ見黒玉ゝ久漏牛方乎見佐府下　麻呂

同　黒牛方塩干乃浦乎紅玉裙須蘓延往者誰妻　世　人

丈本　ゝろゝゝと漕ゝろゝ汐士のゝも舟い鯨ゝゝゝゝ浪もいゝゝん　仲

黒江橋　山地ゝ海地橋と後ゝゝて四ゝ西ゝゝ海ゝ人ゝ海ゝの

同　村小の入口にあゝ間ゝゝゝゝ富饒の地ゝゝゝ

荒池　債日敕絶に日称徳天平勝宝六月十日ゝゝゝ粒の墓あゝゝゝゝ合祭て

帰巻ゝ後景雲二年七月晦の八代ゝ蛸ゝ墓慶司

七丈南向ゝ去及日暮不知去處云

其外蛙合　今不詳

合龍堂　同　村市場のゝゝゝゝゝゝゝ峠のゝゝゝゝゝ

実如上人ゝ名の御書ゝゝゝゝゝゝ二上の麓ゝ口遊場

城趾　同　村南地ゝの山ゝゝゝゝ羊中山ゝ城ゝの麓ゝ義ゝの

干潟浦　日方浦ゝゝゝゝゝゝゝ

栗問戸

黒江椀屋挽

観音堂

若宮八幡宮　他の谷

辨天山正定聚院永正寺　開山堂　本尊阿弥陀佛

立像にて長三尺三寸　像体上人　縁起弁財天社　名号碑

當山は原古刹にして開創いたしたるよし浮く洋々

そこくに荒廃既に手なをらず唯一宇の仲堂とのこる其遺

跡にて村老これを承る中比上蓮社

自正景誉上人　光師同御像誉ち超蓮社

上誉上人の遺跡を継たるの屋法務のいとゆ勉学こと

山にまぎれんとて此地をもとさたるひとりに村中一箇の

信男が橋爪氏たるもの上人に請て草舎を屈致し鎮

西の一流の法味をうけ聽聞日々深く信心のわも

ひとしく凝し頻に弘通のこゝろざしを決定の田園を

喜捨し一區の梵宮を生じ上人にゆだねゆるせしよし人

法のこゝろあれ枉て山地を卜し注浄教と為施し給ひ遠

き昔編素はじめ法雨を潤さるものあり此を終る

上人ゆく中興の祖にて綿年七十歳十月十夜の

勅行ありて深帰海會の永式今に日月十五日往詣い

くれどもうたり

神門町

妙見宮里神社　八王子社　神宮寺　牛頭天王社　八王子社　牛頭天王社

生去年にて例年九月十一日　金毘羅大権現

本社

天竺山阿弥陀寺　法大師の作　勅願寺　義

服士波切不動明王　法大師の像作　さく

大師堂　牛尊阿弥陀佛　像山良敏　のさく

四国八十八ヶ所と絵図の第二十二番に記に

法の縁にて法のむくいそうれんやうん

水頭古精舍春至
烟華濃松際僧歸
晚殷殷出谷鐘
中洲

高里神社
永正寺

河村　今井田村と云　城趾　日村の小の山上にあり元性日

栗田神社　井田村に在り上に在り村の氏神　栗田朝臣祖彦國葺命

生年不詳九月十日

西北に人丸寿日下の社に人姫大明神まさい吉提房王

子もろもろはるびるにちてぶ

春日山地道院　郷に在り言ふ古義　本尊地藏尊

大師堂　川法大師の像作伴ちゝ

大門坂　まと小門坂　日村より山まあり旦来ようの日のひろの道のりちゝ

しゝ今ちゝ居の王子　寿日山の西のうれ居の王子　弾石あり神幸紀に云ふ坂王子次に泰松代王子有音

松代王子　女明日記に云ふ文明日記に云ふ坂王子次に松代王子

三上山　寿日山と云ふ原平多製記に三位中将多三上と云ふ

山の堂　法施とたてまつる人下畧

凡て斜ちゝ寿の日の傾ゝをまつ

みゝ南海ちゝ月恨ちゝ

春日神社　三上の山にあり大宮の生年不詳にて例年九月十日　祀神國忍人命　本國神名帳云　正一位春日神

本地堂本尊釋迦佛　座像　作ちゝ　別当　長谷山金剛院神宮寺

大師堂　作ちゝ

作當社の勅使に年暦久きとゝ共監舩さゝちゝ中

古大宮城既落の火の餘煙消れ羅門く荒廃ゝ社

社さゝ尚雜もちゝちゝ郷老集會ゝちゝ

社檀をいゝちゝ

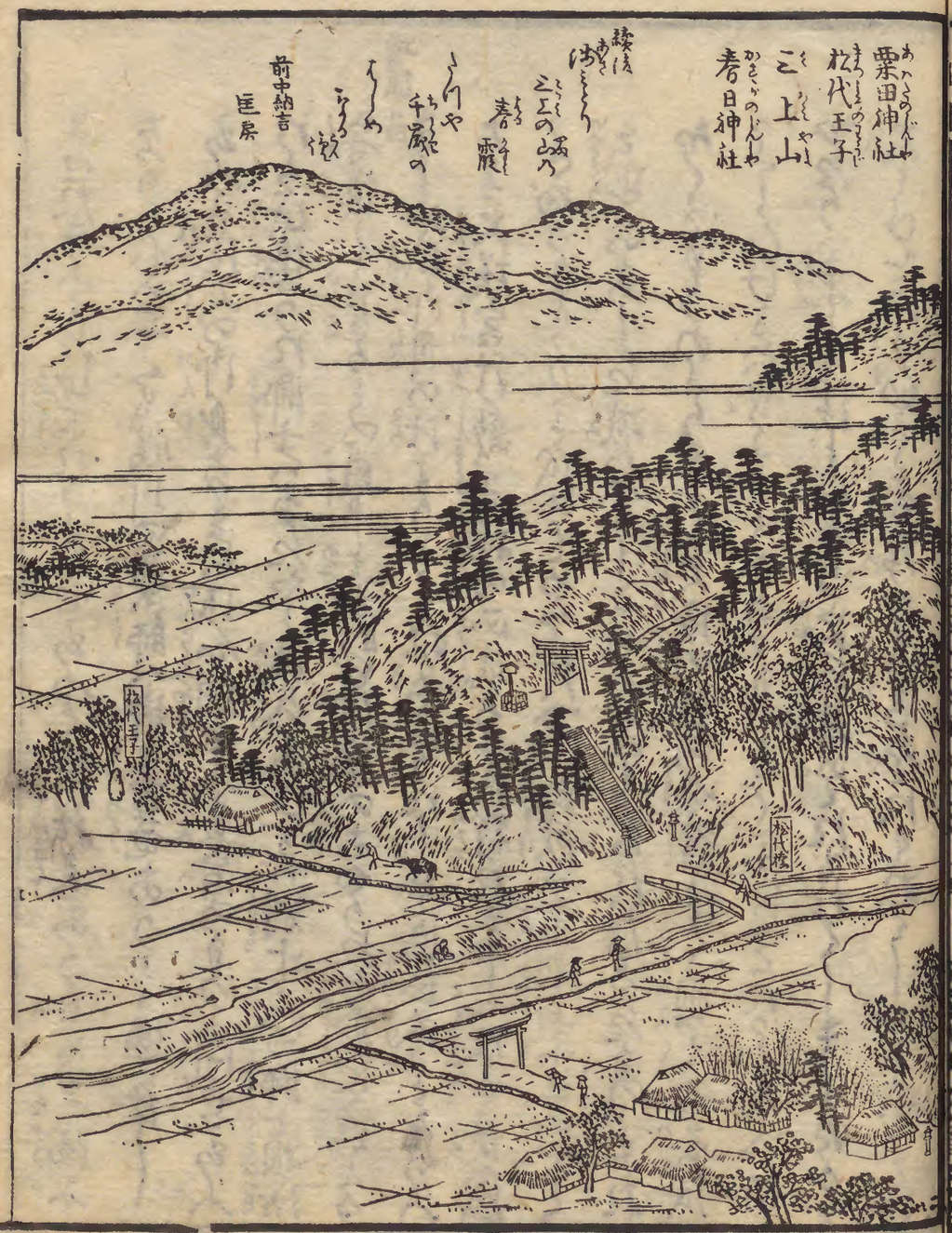
南部寿日大神　大足彦国押人命　大寿日の朝臣年所　栗田の社　栗田姓の人この祀に

出自孝照天皇皇子足彦国押人命　栗田姓氏　栗田の社　下宮　称し　称す　称す　孝照天皇の皇子

賜大寿日姓　誘に日尚社鎮座ちゝ

たゝまつる五十鈴の者守護ゝ

元弘二年の春大塔宮護良親王南都般若ちゝ結界給へ


栗田神社
松代王子
こ上山
春日神社
千歳の
春霞
前中納言
匡房
松代王子
松代橋

城跡
栗田社
栗田の
吐竜

さてたまくしげにてさてせもつく御社案あり日も夕陽ふ
ちうなる小早くも淀川の藻師へ御手竜ありく通夜し
あつて長人の御北ちまびけん細さふ真宿のあつ内せもあ
りて山鳥うん御士いちんやとまりあしうど別十人の御士根造
寺後しまるこの由ト上ん御感のあるに受ケを場なる
増鏡曰
まくやし卯月のほようくれ牡丹ふ花くそ
ちる大塔宮法親王楠の正成ちんれるで心にく世成
くぬんたうこんのこやてに正成ん金剛山千葉やと
こ正さうやしに城ん正らくくえもりたるたるものもれ
わくくりのうさく大塔の宮の令旨くく四くの兵成
くしひまで世ようみあるものすくこしたくろへん
ひうい東ようはどひうん鳥ん鳥をたれくまりなるう
大くひとはくひくしにもるをたれくゆかよう

はくさうめぐたるあくにんよ
御あらうをはきあらしゑ
たべーそはさーごいきこゆ
山寺この十義所の御士も
城
趾
この春日山よりうく城あり城を築
延命寺
百草社神宮寺
大師堂
百草明神
生土神にて毎年九月十日
齊伝勅使の年代洋々たれ
年間二品親王任助再興の株れ
十念山具足院称名寺
百草社の神宮寺
本尊文意編観世音作つるひ
稲生雅楽の助岸
花神草野姫
草の空姫
殿梁の後日八王子社まで元亀
二品任助親王
十一面観世音作はるひ

車岩瀧

六月陰崖瀑布泉山風吹下白於綿。龍綉織出天孫手。一疋素練不斷懸。

峨眉山人

大師堂　仏法大師の像作り給ふ西国に〇四国八十八ケ所どうろん弘法の跡五十五番札所

車岩の瀑布　天照大神　大竜王　小祠二社あり

花泉翠岩よ侍り〇〇〇

別所鶴成寺
長谷山
上の院
下の院
番川道
奥の天竜
宗像

伊勢
山
鶴成寺
本堂
開山堂
三毛門
大滝

満願寺をもつて願成寺と号す

僧湛慶　奉譲渡別所之山地壹處事

在紀伊国三上院重野郷奥山中　第三瀧別所　願成寺

四至　東限峯道　南限瀧上黒山　西限長竺山　北限自大路界迄二千古田口

右件別所者。是湛慶之三上所座令開發刹。切開深山奥。令建立堂宇招居住僧等以里肆町宛行各食物免除公事并官物致歸依故。件山中東西拾陸町。南北拾陸町以令寺領可令下于至慈尊三會曉廻向者。抑黒山者。是伐以為主野者又以開發為主事。世常習也。就中件山之本主者紀貞正相傳私領也。彼貞正行得之。員物臣多之故。以重野郷并件山等令弁濟行得之。出舉伐早隨。又全以無旦他主人。仍別所奉譲渡湛慶之舎第中納言君宗顕者也。以不可寺務執行之状如件故以解

日僧書印

本願上人湛慶

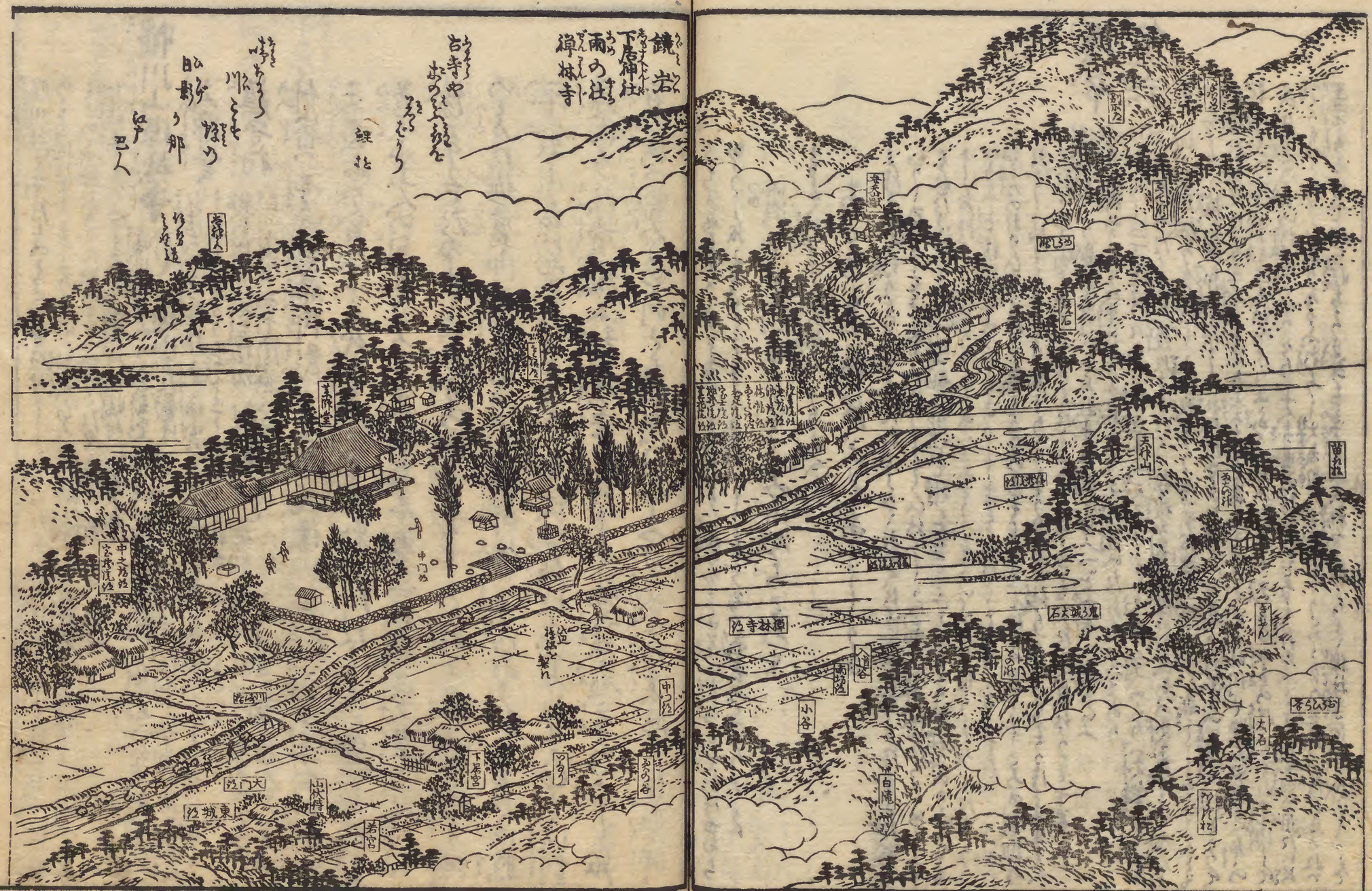
久壽二年正月

西行法師熊野詣

[illegible]

[illegible]

[illegible]


鏡岩
下居神社
雨の社
禅林寺
中門
中之坊
大門
東城
山伏侍
若宮
下居宮
中門
白滝
小谷
南谷
禅林寺
石大城
天狗山
丸社

幡川村に寺院二つあり[illegible]海水の入る所なり[illegible]那
のこれ辺にありしまでは幡川村人いろひあり[illegible]
[illegible]

幡川山淳林寺

幡川村にあり[illegible]

本尊薬師佛

[illegible]

大師堂

[illegible]

薬師堂

[illegible]

中門趾

[illegible]

法華堂

[illegible]

阿弥陀佛

[illegible]

三千佛画像

[illegible]

什寶

[illegible]

清水寺

[illegible]

白山社

[illegible]

聖武皇帝御影

[illegible]

弘法大師

[illegible]

阿弥陀上人の開基

[illegible]

聖武天皇の勅願所

[illegible]

聖武上皇王舟

[illegible]

白王城

[illegible]

南方坤の方に仏堂御創立あり

[illegible]

薬師佛

[illegible]

平金[illegible]

[illegible]

勅使地

[illegible]

建あり法燈燦々封境度たし

[illegible]

仏堂

[illegible]

仁の寺

[illegible]

七仏薬師

[illegible]

瑠璃光七佛の称経に古洋王如来宝月智光自在王如来金色宝光妙行如来無有最勝吉祥如来法海雷音如来法海息遊戯神通如来薬師瑠璃光如来と云えり[illegible]

唐寺

[illegible]

七仏堂

[illegible]

山門

[illegible]

子院

[illegible]

田宅

[illegible]

古碑

[illegible]

猿の吟

[illegible]

鬼ヶ城の古岩

[illegible]

下居神社

[illegible]

雨の宮

[illegible]

苗取歩

[illegible]

子安山地福寺

[illegible]

大師堂　弘法大師の像を作り奉る

勢王山吉祥寺　山田村にあり　真言宗

大師堂　弘法大師の像を作り奉る

本尊釈迦佛　二尺五寸作

南陽山禅定寺　曲良村にあり　真言宗

眼檀幸磨大師　歓喜堂

本尊十一面観世音　丈二尺八寸作

法雲山慈眼院釈迦寺　四国八十八ヶ所の第六十番の札所

大師堂　弘法大師の像を作り奉る

本尊聖観世音　丈二尺三寸作

宝岡山蓮華寺　中村にあり　真言宗

大師堂　弘法大師の像を作り奉る

本尊延命地蔵　丈一尺二寸

三八幡神社　村の東にあり

大師堂

末社　天満宮八幡宮天満宮

八幡山但成院神宮寺　高社の神地にあり

宇賀辺和泉寺　真言宗　旧宅跡

大師堂　弘法大師の像を作り奉る

大野　注考大野郡のあるべき筈のことなれども国の府

廃釈迦寺　中村の東にあり　真言宗

大野城跡　村の南にあり　西の城東の城東西二所へ

城　西の方の山勢地に東西の嶺連り其中に虹岩

卯城岩あり　山路へ攀ること十餘町あり天守の跡

二丸の跡い礎石多し　当城を築く時代は文亀の

建武の年間に沙弥宗心生城し延元のころ忍者

成生城と云平十九年より細川淡路守宗茂と頼して

代官所郷左衛門尉居る至慶年中より此地を名

所理右衛門義理居城す同苗氏清は満幸と逆し内乱合戦

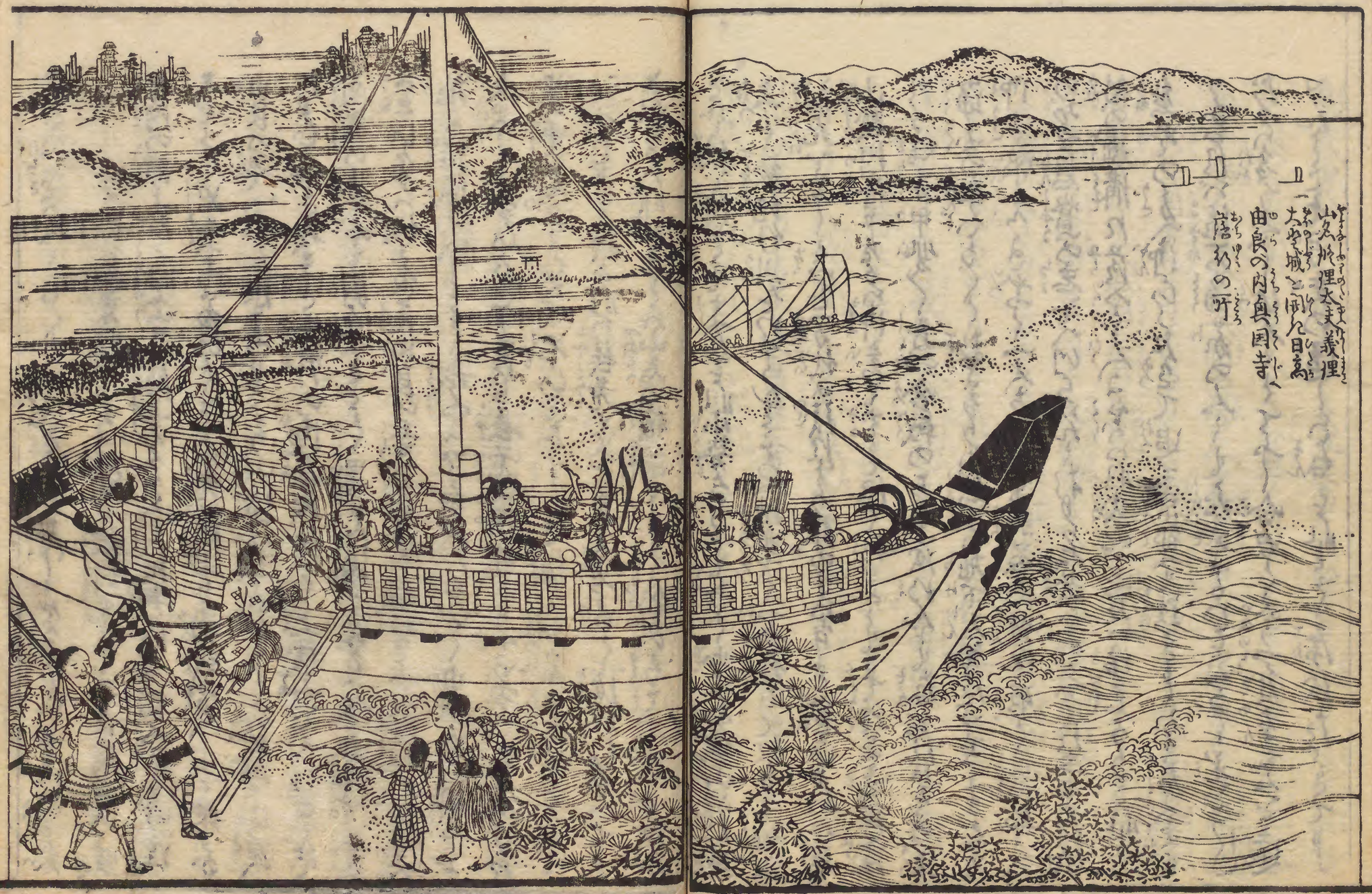
して出雲に帰し義理も逐電して生家は四年より

大内左京大夫義弘下其城代奉行平井豊後
こまを守る志ろふ永六年の秋大内助又逆義弘畠山
基國ゞ讒言ところ泉州堺浦ゟ合戦し基國ゞ陣ゟ
ゟ畠山滿家と討ゟこの勲功より紀伊国成行人
のゝ城ゟ守護代佐々木入道ゟ天文年間之
間筑前守ゟ小弐まもる天竺の比ゟ神保行来遊佐弟能守
おゝ小弐守ゟ巻大内秀吉ゟ畠国討入のゝ城ゟ
朝遵曰
将軍義滿叙従二位康暦元年考正月南征使山名義理氏清
等紀州之數城菊地下武家西州悉従属武風天下倍靡将
軍義理用之與氏清等 義理久京 人兵赴紀州圍數城河瀬川 陽成
孫六之孫左京進之 土九之數堅悉被陥義理策弊又拔數城南方所殘
之城僅赤坂千破劔 紀州牲川圓地之族守之 新宮之三城而已至是山名大

明德記
振兵勢南軍悉頓威力義滿以紀州賜義理賞戦功
ゟ行ゟ中国ゟ安ゟ為ゟ人紀伊國ゟ大内左京大夫義弘
御書の内ゟ思案ゟ為ゟ御免ゟ為ゟ年内
ゟ仕下ゟ仕ゟ御免ゟ為ゟ間不義の氏清ゟ
月十三日都ゟ立ゟ私泉国ゟ逃下ゟ義理退治ゟ
の兵船百餘艘ゟ分四のゟ方ゟ
和泉ゟ王ゟ紀ゟ渡ゟ政入戦ゟ雄を交ゟ
搦手のゟ芝ゟ和泉の堺ゟ上ゟ
一千騎珍国の府ゟ陣ゟ山名陸奥ゟ
今守草山駿河守ゟ美作ゟ
ゟの切所ゟ切塞ゟ雨山土九ゟ
まゞ今度都の合戦ゟ出屋ゟ天下の騒動ゟ氏清海

幸の武勇たゞごとにあらずと義理のあるひとにはあらず紀伊国の
故実の合戦いまゝんと人々の心悪くおもひいるゝところに赤松上総助
義則佐々木援磨太郎の勢二十餘騎を二手にわけ美作国
に及ぶ国中物ちらしの雨ふり丸にてゆりたる夜の勢
もの物ゝ〻ゝて大内左京大夫の家内をそゝ白昼に去
丸を出ゝ陣を取ゝ上総助ゝからゝ山を分かたて
合戦ことゞさかもるゝ山城河内も出丸に落ゝ結
城白へ出ん赤松ゝ義弘の兵法大ゝゝ義理の兵日〻に減し
方へ陣ゝ〻ゝ紀伊国勢も無ゝ大内の
〻今百騎にもたゝらぬ甲斐〻しく手もあ
まゝなる故の役ちゝ分ぬ先ふゝ女姓わゝ人〻の思ひ
なしにたゞ〻二月廿三日の暮れ軍の内談ゝけん
理左衛門のひろいたゞ要害にてもあるべ

ゝ敵と待ゝ〻もたんとし小勢なりとも寄ゝ出て和佐山城に地
上ゝ敵紀伊川をゝうんとゝ地集ゝ合戦ゝて
討死ゝ〻ゝ名を万代に残ゝ極ふ
山駿河守ゝ〻ゝ沖ゝ〻ゝ草
ゝ時分甲斐〻〻〻合戦のちゝ〻ゝ〻ゝ上
沖ゝの国人ゝ〻ゝ〻ゝ地下人等にゝまぐも
沖ゝ弊ゝ〻ゝ〻ゝ〻



国立公文書館
National Archives of Japan

なまこへつ座のへ〳〵こゝく〳〵ゆき山義にぞ用ゐ
まべ〳〵〳〵〳〵小の東れ浦よりゆう私とつ種り峯〳〵二月廿五日の曉
干潟の浦よりゑ〳〵ちそ法上するふこだ出て甲峯出く〳〵義理
さだ〳〵〳〵思業まるゆひ〳〵さ〳〵〳〵先法へ上り内談ゆべ〳〵〳〵てゝ〳〵
由良の湊へおゝらなまへ出そよりゝ山伏の塩のゝちゝ紙屋〳〵うゆへ
ゆりゆひべさ紙まさゝ高野の浦山伏仰〳〵上集山とうちこゝんて
南朝の方へやまのゝべさ〳〵〳〵〳〵異名遍〳〵ゝりゝよ修理寺
宮ひゝゝゝゝゝゝ由良の寺へまへゝゝゝゝ名上人御手創り異
地の結縁より〳〵〳〵〳〵舟入よいゝゝ伏ゝゝゝひ〳〵由良の奥国ゝへて
泉〳〵〳〵ゝひゝるすのゝち長老よ相着あゝてゝゝゝ美幼のゝゝた
世の中ゝゝゝゝゝゝ

嶺の霞と〜松ぐ山松出でぬ延ん代のゞるとも枯くなりにし

月數と重なりぬ山の海を名ゝる神風や伊勢の国へと出給へ　下畧

久志浦

右人中田〜人日方浦の清水納三松中希に浦に名ゝるの浦日名あり

南は北ゝ方ゝ浦ゝ爾依浪音高不相子故爾　人　丸

方案　本海之名志浦

日　紫之名志浦之浦之子地神耳觸而不寐雪將成　作者未詳

日　紫之名志浦之久告藻之久佐特靡時待吾乎　日

夫木　紀の海の名ゝの浦よゆ〜れの〜ゝ帆にも人とあいそ〜る　名　家

千そ　夜半の月名ゝの浦の波の上ゝ秋のあらしといふたすむん　信実朝臣

源公　月ゝて秋乃名ゝ浦ゝ波ゝ立ぬ立ぬ立ぬ

心山寺念寺　日浦にあり法土宗　本尊阿弥陀佛　安阿の作か開基つぶらの氏　法華堂日方永仁元年　寺中巻尊須弥壇中島の作か　紀考老　紀州三尊七五八寸　若松信敬の作か三十三所観音の作か四天王像

殿極楽寺　にしたにあり　紀神社　ほうたにあり　紀の生土神　別名九月十一日

船津市姫神社　日浦にあり　柳の井戸　居村の西細川の下にあり　弘法大師掘　後戸王子　日浦にあり　居の王子　九十九王子の一

この鳥居旧跡　居村の内にあり　本尊阿弥陀佛　安阿の作か　長六尺

仙臺山浄土寺　日村にあり　時宗　本尊の東　岩修理を支義浄の碑石　日所の東

亀井六郎　兄弟の碑石　山の山にあり

嵩ちの相久藤法寺一遍上人の開基なり大野城主山名修理を支

義理の善提所なりしかるに仙巻院松岳永寿居士本下氏

部ゆえ臣利三々有縁あり又於本三郎亀井六郎いさしも海内ふ

鬼神のごとくひしもたりしうあるこ今は松の嵐谷の声のこ老

雲幽谷寂く凄風萬古の些こ墳学い落葉に埋まれ苔こる

竹いらぬゆこの道行人もしもぶたりた兵石の卯のこ苔こ枯骸を

魑魅に托し蒼苔層々しこ骨も雄名い天地よりこ

文物の日星こ

亀井の泉　日村にあり　清泉四時清潔　この用水に井戸と亀井坂内こ

小中山誓願院観音寺　日村にあり　本尊石観世音　法人師作像作　四国八十八ヶ所と後二十七番に配し

大師堂　法人師作像作　この法の時の彫刻か

神霊の神社　日村の南にあり　本尊の地主神　別名八幡宮

岌白墨　岌白のひいこ　自沙法皇　紀州山口郡　幸山　花山院

家集　とる事ぬこの岌白の秋のそたんぬ七日の桃の玉ぬこ　冷泉為重

日

あつ氏松のつ岌白の事ぬ桃の玉つこ　に

文墨い人皇十六代弘仁天皇の御宇たつ　くこ文と用ひ

業墨ゆこたよう始こ　こ文こ推古帝十八年春二月高麗王

僧曇徴こ貢上ぬ紙墨こ法ぬるこあ五ゆこたよう

[illegible]

[illegible]

紀朱三郎重家宅

[illegible]

[illegible]

家傳に曰人皇の初神武天皇東征ちうしうの虚空見日本国の[illegible]に[illegible]饒速日命稲穂と稜威を持て稜威[illegible]に供ひしかひしく天皇こゝに[illegible]賞美こゝろいくすのかちう穂稜の姓[illegible]ゆるしたまふ[illegible]命百杖の槌を握取裂給取給[illegible]く持持神宝と所除たまふと給ふ[illegible]ゆる[illegible]ゆる孫ゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]神代のむかしよりゆる孫ゆゑ[illegible]

[illegible]の氏三郎重家くゝ源義朝義経に[illegible]所ゝに戦功をあらはす[illegible]川の合戦に紀信が忠[illegible]ゆゑ[illegible]代ゝに討死れ[illegible]百[illegible]の人義経の[illegible]ゆゑ[illegible]忠[illegible]ゆゑ[illegible]の[illegible]義の[illegible]

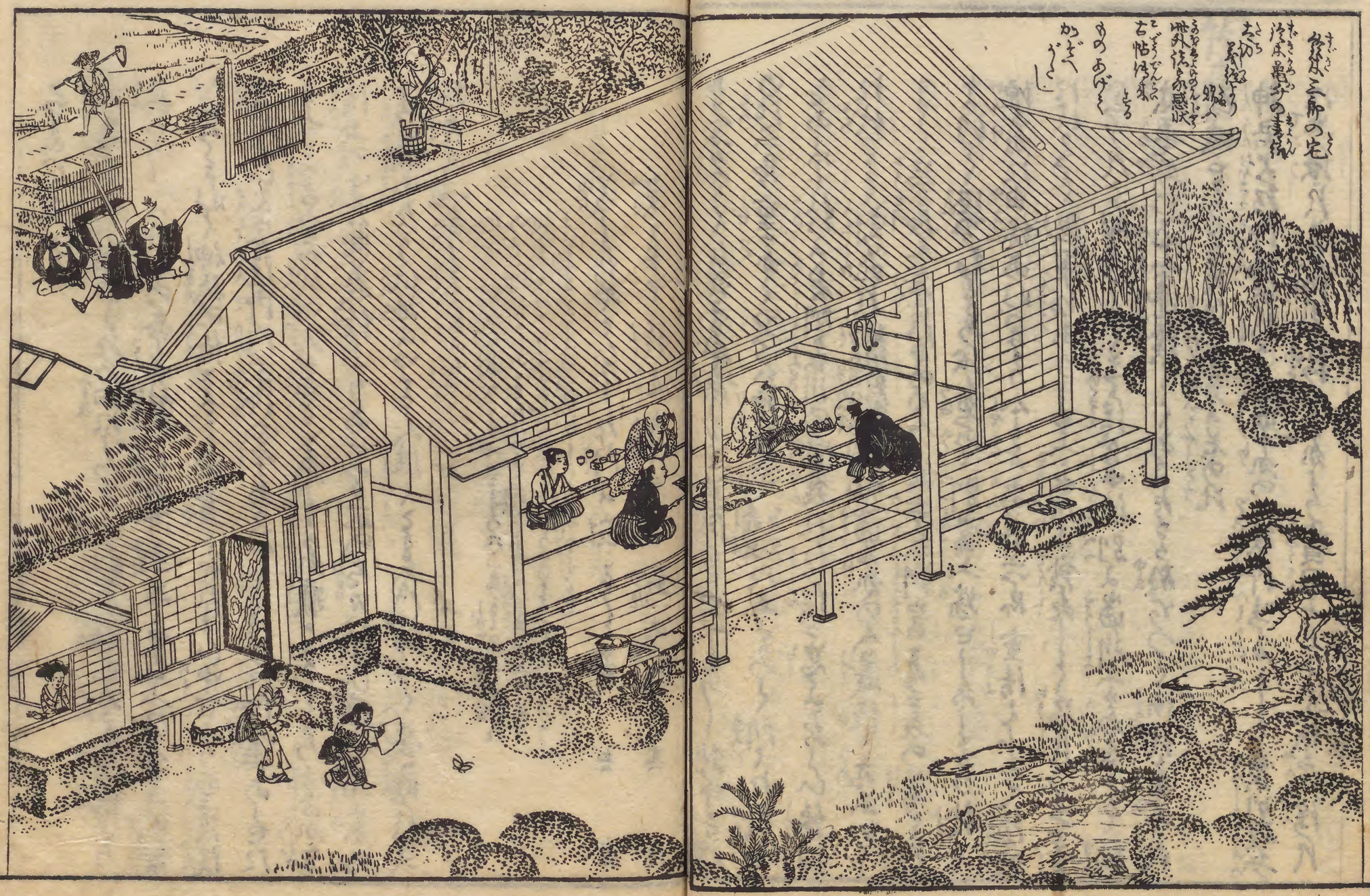
[illegible]源家に由縁あり[illegible]亀井六郎重清[illegible]ゆゑ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



国立公文書館
National Archives of Japan

ちまたによろこ
南龍君御入国のころ回にたく[illegible]紙数し今に連綿ら
其へつ〳〵代くの帝王然[illegible]三山御幸あせもろ[illegible]風輦
とめてこゝに神孫の絶ざること紙賞せたまひ中古より西王護院
宮および三宮院御門主御入峯あるたひに御入興あせた
まへく宮ふ希代の名家くつべく家蔵ところ家を
清水の書簡義経よりあるこる所の去来
書簡おろう此地よりる人住くこと紙語〳〵展転又
好古乃一奇事ちう

紀伊の[illegible]白とあるる地成[illegible]こ島そ家の来今た
あるく[illegible]れたよいるまたたくるみ[illegible]文[illegible]る文の根[illegible]古来今もあり
例くこ[illegible]
まこ[illegible]へ[illegible]の弓掛[illegible]
家しるやこいしれ門ま立ち[illegible]

炭ゐや 行末亀井ゐ[illegible]の[illegible]れ 其角

雑子帝や 行末ゐ[illegible]のひ[illegible]ゐ人 若山 槐亭
行中鯨や丹後鯉より名と出い紫宸自のすれ名こ 教二
為しるの祈れ[illegible]最の鈴[illegible]氏やしるれ[illegible]
亀井六郎四宅趾 旧所の小れ[illegible]ゐ此家僧い 若山 眠洞
行末氏[illegible]
亀井六郎より行末家へ[illegible]
[illegible]行と入い八[illegible]家[illegible]
有御紙翌月こ奥別へ可有御[illegible]
移徙こ作ふ紙[illegible]
二月廿八日

亀井六郎重清

[illegible]

御宿所

藤白浦 [illegible]
圓座石 [illegible]

藤白浦
王子権現社
中道寺
鬼貫
京
左牛
八王子
次ハつぐと

宮山

友白のゝ月にはかりとひこもるとに秋の夜の月

藤白浦の春望

誰う省ゑて汚れのこる眼を晴

若山槐亭

藤白若一王子社

月村の南にあり　北甲村の生土神　四季の祭禮　三月三日　二月十五日　九月九日　十一月十日

祀神　左　伊弉奈岐尊　伊弉奈美尊　火結命

中　饒速日命

右　速玉之男命　車解之男命

千早振神

白雄子繪馬

安藝

柿神社

白の神

賓培之基

柿の井

柿生松

若くさの神くまの万代とうく相生の松とまるく所　加茂社の女房

建仁元年十月廿九日鳥羽殿御幸記曰

朝出立顔遅之間已於王子御前有御経供養等

雖宮参白拍子之間雜事人多立隔無路強不給参

遂電攀昇藤代坂　五條王子有相撲等　藤代王子和歌會　建仁元年十月十日

詠二首　和歌

深山紅葉　海邊千月

鳥羽殿の御子の錦の竜田姫なまこの山本もひろく深紅　御製

浦さむく小塩の山の紅葉ゆく浪と空上の月の秋風　内大臣通親

分くる山文ともくさの山もみちの色を花ともこそ　内大臣通親

千代とをて月そまたこの浦の屋の御幸待そ　内大臣通親

ひろくりくこの山ちのくく松の色を秋の日の　参議左近衛中將藤原公經

底ひのう浪松のひかさしたの袖よりまこそ冬の月　内大臣

あるて誰きてくれむ奥山のゆくこの小塩の深も　左宰大貳藤原親定

冬葉に月すむ秋ぞくこそ山の紅葉ゆくこの御幸待　内大臣

ゆくこの御幸の日数のうつるふるまちの名を　左中將通光

奥津風吹上の月の秋の月いまの人　内大臣

こもるこの嵐も深の山の紅葉御幸待　左近衛權少將藤原定家

曇なく深の山の紅葉御幸待　内大臣

都人花とのみ思ふ紅葉の色の月　春宮權亮源朝臣定通

伊勢のあま御幸の浦のうつる秋の月　内大臣

まこそ山の深山の紅葉ゆくこの御幸　春宮大夫藤原實房

月ゆくまこそ山の紅葉ゆくこの御幸　内大臣

深山ゆくこの山の紅葉ゆくこの御幸　内大臣

ひろくりくこの山ちのくく松の色を秋の日の　内大臣

国立公文書館
National Archives of Japan

藤白松

いにしへの
みゆきもしるし
なかつ
ゆ

ふるさと
春の
緑の
まつの

安嘉門院
四條

ロもとつる岸の松に落る紅葉色も日数もふるさとの那
風雅集 藤原信綱

皇太后宮少進

ふるの社のこのしたの落葉月のかたらひ

日

百千鳥こゑの限りなきの音すむ滝のたるみをすゝん

右馬助源朝臣家長

日

ねしのぶ浦の秋の夕の海たゆたひこのさとしのう歩

藤原清亀

塩風やゆふ上の月に千鳥なくこゑのとこわまる

日

石号居

徳臨億兆今。憲八甲。秋九月日。永田拾菴思達謹誌。中道々左ヱ門尉創立ス焉。小二町にあり。絵馬日。雅石鎮表分。雅神有鎮分。器豈為小分。

當社の鎮座至て久遠なるいにしへより世々の帝王然ることゝ

紀幸あり〳〵ともいまだ然の所なく歴代后妃夫人

のゝあふことに動詩をこめもつて久安四年丙午三月

文明六年丙戌十八年冬長八年の梅花 花古帖ちるねもと

御幸記曰 三師第山若王子 おもちの社より熊野山まで九十九

所の王子社 代遠く御幸の御想所 たましいをすゝらら

熱田所大権現の遥拝の地たりしを

藤白王子　鯉風

ふる日やゆしわくふる九十九所

万葉　藤白の三坂乎越　跡白栲の我衣手者所沾香裳　名

藤白坂

続後拾遺　藤代の三坂を越て震ちる上の木蔭　信正卿

新千　ふち代の三坂とこゑ白妙の袂をいめしたちる郷　よみ人しらず

新後拾遺　長手のさゝをゆめ山を藤代の三坂を越る袂の道　左上天皇

文本　みちはにみちやゝん藤白の山いまるゝ木の葉ちるゝ　為家

藤白の山の三坂とこゑもあへぬまつゆふる吹上のゝ風　日

発句集　ふち白やゝのゝ秋風の吹上ゝ出る月ゆ　雅経

暮ゆて陰後ふち代の山の三坂とこゑ誰ゝ　為久

日本紀。齊明天皇三年。秋九月。有間皇子。性黠陽狂。往牟婁温湯。佯療病。来讃國。體勢曰。纔歓。彼地病自瘳。天皇聞悦。思欲往観。四年冬十月庚戌朔甲子。幸紀温湯。十一月庚辰朔壬午。留于宮禁。我赤兄臣。語有間皇子曰。天皇所知政事有失矣。大起倉庫。積聚民財。也。長穿渠水。損費公糧。也。載石於舟。運積為丘。也。有間皇子。乃知赤兄之善己。而欣然報答之曰。吾年始可用兵時矣。甲申。有間皇子。向赤兄家。登樓而謀。夾膝自断。於是知相之不祥。俱盟而止宿。夜半。赤兄遣物部朴井連鮪率造宮丁。圍有間皇子。於市經。便遣驛使。奏天皇所。戊子。捉有間皇子。一本有間皇子。十九歳。送紀温湯。於是皇太子親

問有間皇子曰。何故謀人。答曰。天与。赤兄知吾主不解。庚寅。
絞有間皇子於藤白坂。
山陵坂。上古森明天皇年婁の温湯に幸ましに比有間皇子
藤白坂。赤兄臣に詐て云。天皇を弑ひまつりぬ。後
殺されたるひろ地ちろは絶えたり坂路ろく崎嶇たり
嶺ろの眺望ろんろく弱浦に遠うして南
海の諸洲目下に秦置ふべ知るの凡元千怒万怪奇とも
ふ。と供し瞰目ちろふ。接嶺あること芝白巨勢が全長
に登臨しも景に摸ちんしく芝に れようづく あるこに生
下に兼に投しく寄絶と嘆ぜしやなの七成ぐるに掬
兼ねくるあるすみろ。
國君ろ石にたくそ。ぶ摽ちろ。
紀人謂余曰。藤代距弱浦一里約。其凡高元寺。南海道

諸洲全在目下。若巨勢氏登此。将畫其壮観。而不能。逸
輟翰于松下。俗所謂金山兼兼松是也。金剛之欲紛而不
果於是相像賦一絶。
聞說紀洲藤代峯。海南絶景目前供。人言詩是有聲
畫欲柱金岡棄兼松

那波道圓

藤城

駐馬藤城望大洋。潮花烟水洗愁腸。金岡擲筆雙
松下。應似青蓮登岳陽。

藤城暖霭

嵐霭春深暖更濃。山容日霽轉朦朧。一痕黛色
烟江杳。恰出文龍山中。

別版

ひけりに行ふとも絵のくれなゐ人を惜のくれなゐ

正徹
眠洞

南紀黒江
雲城
宏代滝

集うも名残まれ
ふく春やしらうくゆうんはくく
伊勢 千風
若山 松半

藤代堂

茂代山のふもとにあり七丈にあまり
梅樹繁茂せり
夏の花
皇子とかたらひし所
相つゝ
有間
夫木 紀貫之
茂代の里の花ちる 定意
茂代の山ちとまくらとよ日ん
白うらやまつのこゝろの
藤白関屋跡

茂白の里より
牛馬
宋紙

比丘尼山

小の陵辺にあり
飯盛山の賢寺

西教寺
表書日吉便法鬼形大名本紙
十月廿三日紀伊国名所旧跡考
藤白坂

孫陀佛

抑当寺宇願寺第八世法印快大僧都大和尚位兼孝法上人
州創るり文明八年春蓮如上人河内国出口村より参詣
のこの仏社上人
病ひ
修行
夫婦
地獄
浦世
観音
菩提
生離
那加谷
千手
竜一百日に
生
夫婦
菩提
の道
夫婦
菩提
ちん初木の仏を相待菩提の要路
議の
明日

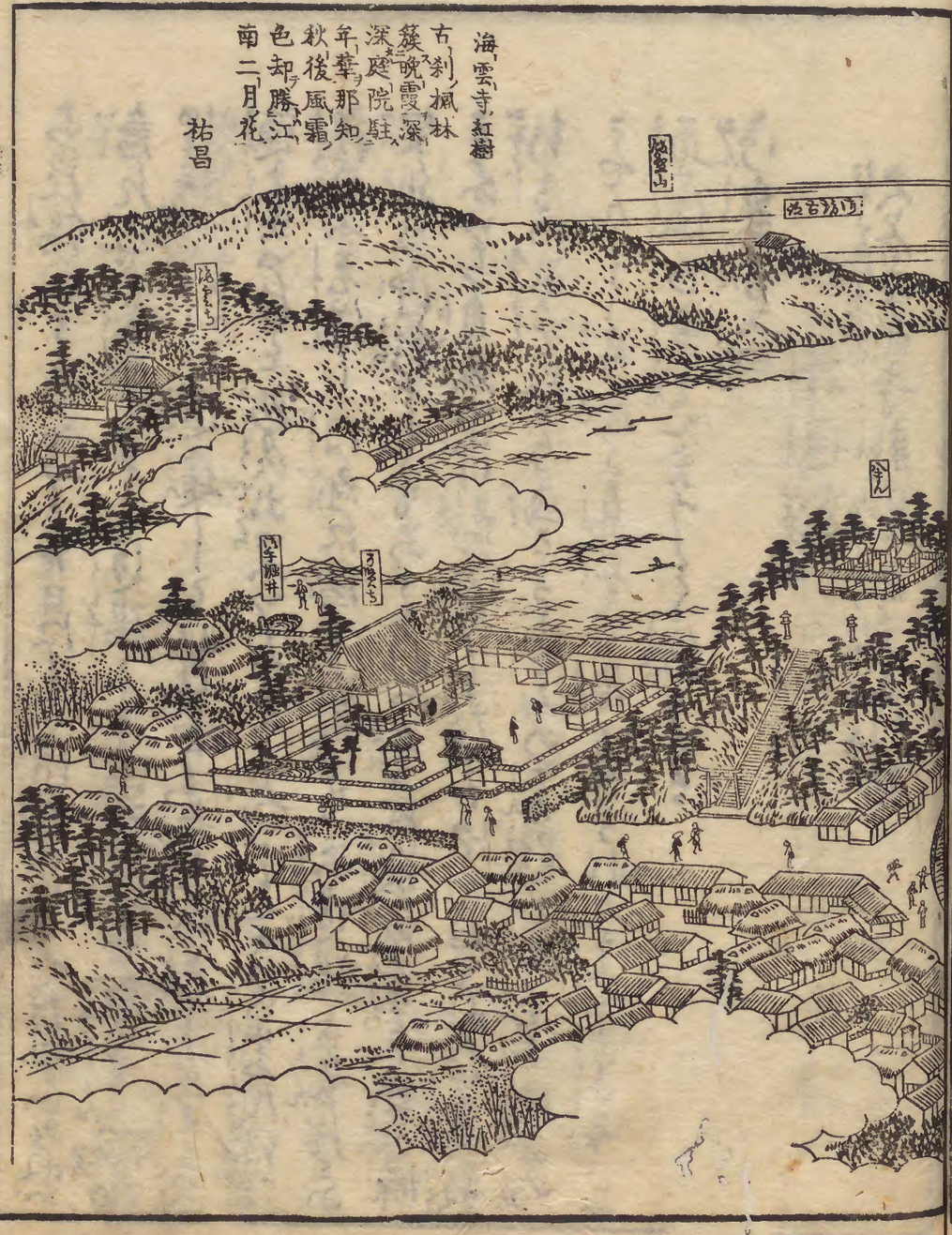
よりて豊朝より芳白峠より出でて、まつふ果てゝ一比五の彩り
ゆふ山たゝ丈よりこびまみえく敝世の告今法ゆ、ひりふりゝ
ろ稚に紙絵つゝの安旬翼ゝ教紀ゝたゆひけまゝ心ゝこゝろまつ
今風命の与逸と受ゝ〜あゆりのよろびふゝが芋今ん法〜
さてまゝる紙絵果がさろざゝ切りふりゝ旦告く曰吾宿
頓のゝ〜あゆゝく今無愛ゝ法ゝ心ゝ法るたり山るゝふゆゝたゝち
よりゝ〜ゝく日沿まで絵〜別まゝり昌ゝふたち きゝ如大ふ識
にてまゝ〜けゝゝこふゝゝりゝ表六たゝ丈い芝所の法ゝりふ風入〜
濤屋所絵だゝまゝ左出ゝ表ゝ告たりゝゝ親表〜て村ゝ
老人たりゝゝ〜ひ御下向所出濤ひたゝまりふ時白ゝゝゝ
法ゝゝ山へい表六たゝ丈御ゝゝ〜ゝ茨白峠ゝり法ゝ浦ゝ下り
たゝ丈ゝの半逆たゝゝ〜く出法ゝり平地ありてゝ時く絵ひ
四ゝふ吹ゝゝまりゝたりゝ心ゝ首城ゝ岩ゝゝ法ゝり

眼下にふゝ浦ゝゝゝの濤ゝゝ風景
ゝ御濤あゝゝ御稼濤のあゆりゝゝゝゝ
四ゝゝ表ゝゝ遠ゝゝ人やりゝん今ゝ
相濤ゝりゝゝゝゝゝ注ゝゝゝゝゝゝ称ゝの
ゝりゝゝゝゝゝ唯ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ阿弥陀佛弥陀如来
御手紙とりゝく濤ひゝゝゝ地と紙ゝ細ゝゝ
丈ゝりゝ〜ゝ尚浦ゝて講坐ゝ遠ゝゝゝゝゝ他
力本願ゝ教ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ南紙ゝゝゝゝゝゝゝゝ
者ゝ教紀ゝ今ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ上人ゝゝゝゝゝゝゝゝ

海雲寺紅樹

古刹楓林
簇晚霞深
深庭院駐
年華那知
秋後風霜
色却勝江
南二月花

枯昌



さて仏像をもつくり奉り廿日にして河内へゆくべしと
急ぎ己が屋敷へゆくに道場と山林とを飯盛山の御堂の
西の町西山にて造建しこぶにて造建の年十月に受
蓮大士いまだ出ふ上人へ申さるに尼崎
荘内に元蔵に門郎に蔵るに道場より安置ふ
宝塔の御影をもあらはしたまふ
とふにて自四の御影と出たまひし富岡教
行らの不思議なる函なる景ちう幸御影
さもんとく房座に真宝もと深さ九寸十寸五二
眼像の裏をとちうく絵うた
ち裏書に曰
稼蓮如判
大り合本願寺親鸞聖人御影

山御影摂州嶋上郡富田教行寺常住也
雖然也紀州河内郡清水道場の本尊
定之物也
文明八年丙申十月廿九日　願主釋了賢

是尚聖人の霊夢ちうに今時紀州御出に安置
ちう文明十八年三月八日泉州堺浦ちうに安置あるく日
根郡海生寺に山岩ちうに尚聖人の草郡七尾
永徳　支島ちうに九日の夜に岩屋に御とまり
十日に黒田の浦ちうに
岩屋に聞ちうにふのうて岩間ちうにあるまゝ
當浦に安置ちうに御法儀と勤めあるとまゝ
信心の門徒の内大病のあるとて上ちうに速に法事

国立公文書館
National Archives of Japan

と立させられし仏像獲得の御文章と伝聞述まつる山御文い
ま山の縁を三尊御合体の御文さまざまの来由最初を
ん獲得とをくいの第十八願とのいのりをくはたらきくく
次の文と業しをさせ因縁所をへ人宮中に題ひまもしい
所をの縁をくくく

塩津湊
蛭子社
観音堂
敷網
陸山
大小寺

蜃樓
海天春霧曉茫茫
空裏樓臺結構長
漢北美來傀儡子
宮中倚傍逸魂香
橋成織女何勞鵲
石動仙人忽叱羊
若使廣陵當一出
枚乘七發更輝光
僧叟
有明濱

とや此禅刹を高らかに海側にくくくく清月禅心を忘し
陰山の翠山巍巍くくくく峰を蒼々和〜書院の窓中れ
白樹あり早来あり茶あり茶くくくく

紀伊国名所圖會巻之五

国立公文書館
National Archives of Japan